

☆話題－培養肉の現状

科学技術の発達により、動物の命を奪うことなく食肉を生産する技術である「培養肉」の話題を目にする機会が増えました。培養肉とはその名のとおり、筋肉の細胞を培養して増やし、大きな肉の塊にする技術ですがまだまだ発展途上の技術であり、食品として提供可能なレベルの培養肉はまだほとんど無いようです。しかし、様々なメリットがあることから世界各国の研究機関や日本の大学でも培養肉の研究が進められており、良好な結果も着実に得られているようで培養肉が店頭に並ぶ未来はそう遠くないかもしれません。

家畜の命を奪うことなく食肉が得られる未来は果たしてどのような世界となるのでしょうか。(F)

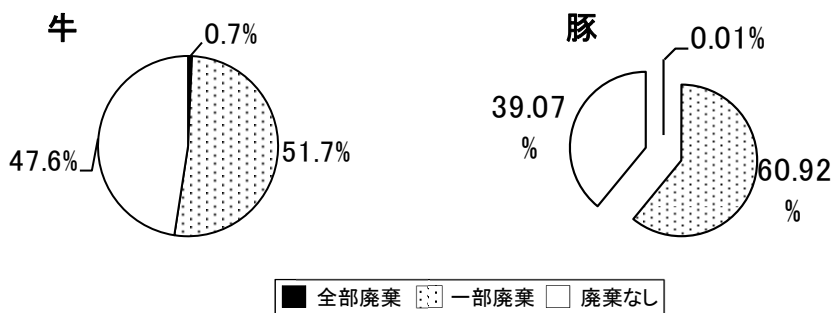
参考文献:NHK WEB 特集『ついに食べた!』～未来の肉「培養肉」の今～

☆と畜検査状況

◎と畜検査頭数および廃棄の原因 (令和4年4月～9月)

畜種	牛		とく		豚		山羊		
	全部廃棄	一部廃棄	全部廃棄	一部廃棄	全部廃棄	一部廃棄	全部廃棄	一部廃棄	
と畜検査頭数	2,554		2		31,547		4		
実頭数	18	1,321	0	2	4	19,217	0	0	
廃棄の原因	放線菌症	0	2	0	0	0	0	0	0
	ミコバクテリウム症	0	0	0	0	0	115	0	0
	ジストマ	0	0	0	0	0	0	0	0
	寄生虫症	0	1	0	0	0	0	0	0
	膿毒症	1	0	0	0	4	0	0	0
	敗血症	1	0	0	0	0	0	0	0
	尿毒症	0	0	0	0	0	0	0	0
	黄疸	1	0	0	0	0	0	0	0
	水腫	5	250	0	1	0	52	0	0
	腫瘍	0	1	0	0	0	0	0	0
	炎症汚染	0	904	0	2	0	11,506	0	0
	変性萎縮	0	578	0	1	0	9,313	0	0
	牛伝染性リンパ腫	10	0	0	0	0	0	0	0
	豚丹毒	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	227	0	0	0	2,175	0	0	
計	18	1,963	0	4	4	23,161	0	0	

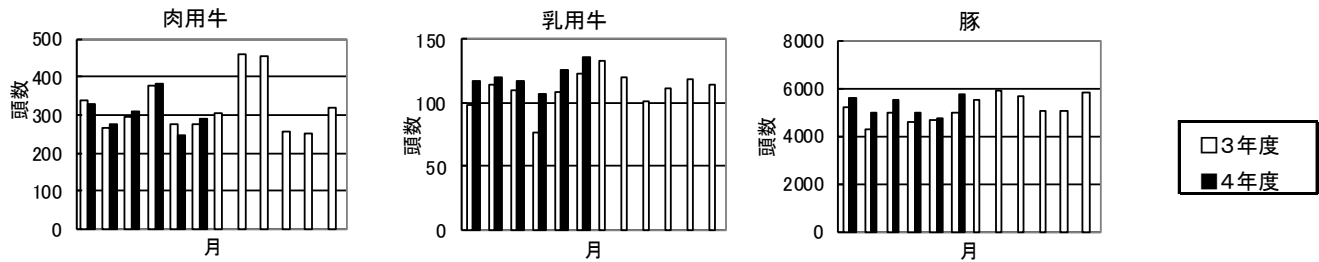
一部廃棄は原因が複数にわたる場合があり、廃棄の原因の合計が実頭数を上回ることがある。



◎と畜検査頭数の推移（令和4年度）（とくを除く）

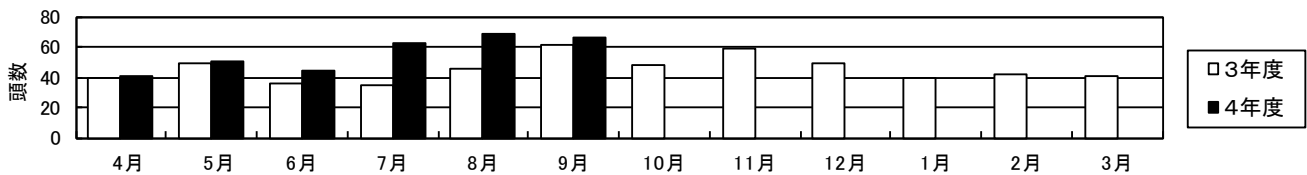
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3年度肉用牛	338	266	293	379	276	274	305	461	454	257	252	317	3,872
4年度肉用牛	331	278	308	380	248	291							1,836
前年比(%)	97.9	104.5	105.1	100.3	89.9	106.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	47.4
3年度乳用牛	98	114	109	76	108	122	132	119	101	111	118	114	1,322
4年度乳用牛	117	119	116	106	125	135							718
前年比(%)	119.4	104.4	106.4	139.5	115.7	110.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	54.3
3年度豚	5244	4260	5006	4573	4657	4995	5521	5879	5658	5094	5023	5823	61,733
4年度豚	5596	4989	5528	4982	4731	5721							31,547
前年比(%)	106.7	117.1	110.4	108.9	101.6	114.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	51.1

肉用牛は黒毛和種、交雑種等、乳用牛はホルスタイン種、ジャージー種等である。



◎病獣畜と畜検査頭数(令和4年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3年度	40	49	36	34	46	61	48	59	49	39	42	41	544
4年度	41	50	44	62	69	66							332
前年比(%)	102.5	102.0	122.2	182.4	150.0	108.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	61.0



4月～9月の病獣畜332頭の内訳は、牛およびとくが305頭、豚が23頭、山羊が4頭であった。

◎時間帯別病獣畜と畜検査頭数(令和4年4月～9月)

受付時間	頭数	うち緊急性		頭数割合(%)
		なし	あり	
(時間外)6:00～8:30	30	30	0	9.0
(時間内)8:30～14:00	294	290	4	88.6
(時間外)14:00～16:00	0	0	0	0.0
16:00～20:00	0	0	0	0.0
土曜日等	8	8	0	2.4
合計	332	328	4	

※土曜日等に病獣畜が搬入されるのは、死に瀕している等、緊急性を要する場合のみである。

◎地域別病獣畜と畜検査頭数(令和4年4月～9月)

地域	岡山	東備	倉敷	井笠	高梁	阿新	真庭	津山	勝英	県外	場内	計
頭数	52	3	5	183	32	8	4	12	2	3	28	332
(うち時間外)	(7)	(1)	0	(2)	0	0	0	0	(2)	(2)	(24)	(38)
頭数割合(%)	15.7	0.9	1.5	55.1	9.6	2.4	1.2	3.6	0.6	0.9	8.4	

☆検査室等における精密検査（令和4年4月～9月）

畜種	疑頭数	疾病名	検査件数						診定頭数	否診定頭数	畜種	疑頭数	疾病名	検査件数						診定頭数	否診定頭数			
			肉眼	鏡検	培養	血清反応	理化学	遺伝子						病理組織	肉眼	鏡検	培養	血清反応	理化学			遺伝子	病理組織	
牛 及 び と く	2	敗血症			18					1	1	豚	1	敗血症			8					1	0	
	0	膿毒症								0	0		4	膿毒症	4							4	0	
	6	尿毒症					6			1	5		0	尿毒症								0	0	
	3	高度の黄疸					3			2	1		0	高度の黄疸								0	0	
	0	高度の水腫								0	0		0	高度の水腫								0	0	
	10	牛伝染性リンパ腫					8	112		10	0		0	豚丹毒								0	0	
	0	腫瘍の多発								0	0		0	白血病								0	0	
	21	計		0	0	18	0	17	0	112	14		7	5	計	4	0	8	0	0	0	0	5	0

解体検査で判定困難な疾病について、精密検査を実施し、食用の適否を判定している。

◎残留有害物質検査（令和4年4月～9月）

・保留畜・病畜スクリーニング

畜種	区分	検査頭数	検査検体数	陰性頭数	陽性頭数	陽性検体数					陰性検体数
						筋肉	腎臓	注射痕	乳房	その他	
牛・とく	保留	7	14	6	1	0	1	0	0	0	13
	病畜	309	618	307	2	0	2	0	0	0	616
豚	保留	11	22	11	0	0	0	0	0	0	22
	病畜	19	38	19	0	0	0	0	0	0	38
山羊	保留	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	病畜	4	8	4	0	0	0	0	0	0	8

健康牛の腎臓1検体および病畜牛の腎臓2検体において直接法陽性であった。

・一般畜モニタリング

畜種	検査頭数	検査検体数	陰性頭数	陽性頭数
牛	12	24	12	0
豚	54	108	54	0
鶏	0	0	0	0

◎BSE（牛海綿状脳症）スクリーニング検査

令和4年4月～9月におけるBSEスクリーニング検査数は0件であった。

（平成29年4月1日以降、月齢24か月以上で、原因不明の神経症状及び起立不能を呈する牛を対象に実施）

発行：岡山市食肉衛生検査所
 TEL：086-272-8399 FAX：086-273-2019
 E-mail：shokunikueiseikensasho@city.okayama.lg.jp
 「枝肉を全部廃棄した牛の解体所見」のメール配信希望等、ご意見、ご要望
 ありましたらお気軽にご連絡ください。